

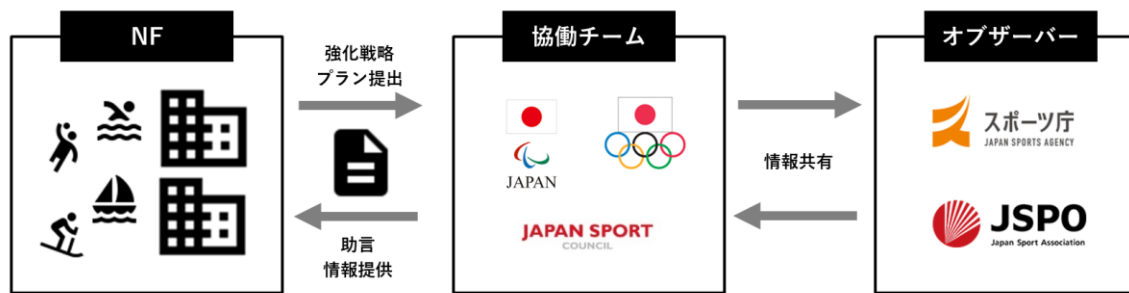
競技力強化のための施策に関する評価検討会（第3回）

ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC） の取組みについて

令和3年9月29日（水）

独立行政法人日本スポーツ振興センター
ハイパフォーマンススポーツセンター
国立スポーツ科学センター長 久木留 毅

協働チームによる強化戦略プランの実効化支援



99単位

強化戦略プラン提出及び協働コンサルテーション実施の対象となる夏季・冬季のオリンピック・パラリンピック競技種別数（2020年度の実績）

協働チームによる
強化戦略プランワークショップ
～PDCAサイクルの「Check」と「Act」の連続性～

各スポーツ協会の強化戦略プラン策定・改訂を支援し、協働チームの協力により、PDCAサイクルの「Check」と「Act」の連続性を確保するためのワークショップを開催します。

今年度のワークショップは、強化戦略プランの策定・改訂を支援する「Check」と「Act」の連続性を確保し、各協会の強化戦略プランの策定・改訂を支援する「Check」と「Act」の連続性を確保する目的で開催いたします。

【日程・開催方法】
① 2020年11月18日(金) 18:00-20:00
② 2020年11月20日(日) 18:00-20:00

開催方法： 同日ともオンライン(Webex)によるライブ配信

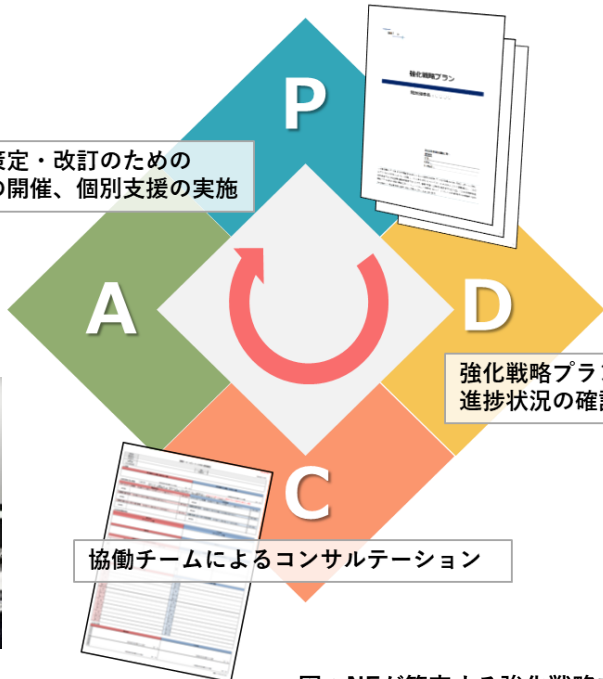
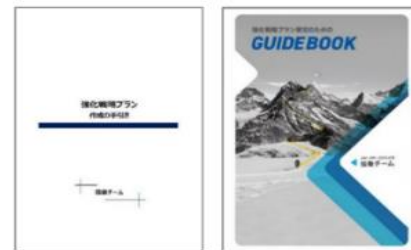
【主催】 協働チーム
- JACAにおける各スポーツ協会の紹介
- 各協会の強化戦略プラン

【協賛】 協働チーム

【会場】 協働チーム

【お問い合わせ先】 協働チーム

強化戦略プラン策定・改訂のための
ワークショップの開催、個別支援の実施



強化戦略プランに基づく
進捗状況の確認・課題解決支援

協働チームによるコンサルテーション



図：NFが策定する強化戦略プランに基づく協働チームの支援活動

メダルポテンシャルアスリート（MPA）とは

メダルポテンシャルアスリート（MPA）数とは、オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた国別の国際競技力を測るための指標。基本的に、直近のベンチマーク大会（世界選手権など）における上位8位に入った選手・ペア・団体を数えた数値。

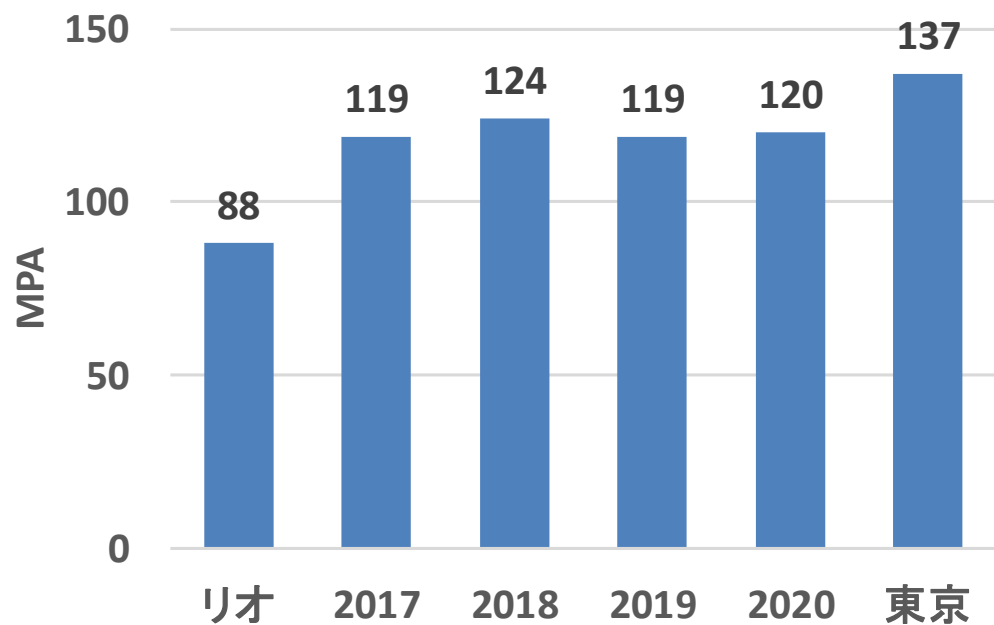
《オリンピック・パラリンピック競技大会との調整》

MPAとしてカウントする種目は、原則としてオリンピック・パラリンピック競技大会での実施種目を採用することとする。ただし、オリンピック・パラリンピック実施種目に対応する種目がベンチマーク大会に無い場合、各競技種別で特別な対応を取る。特にパラリンピックのクラス分けについては直接的な算出が困難であるため、パラリンピック競技大会に最も適した方法を採用する。

リオ2016~東京2020における日本のMPA数の推移

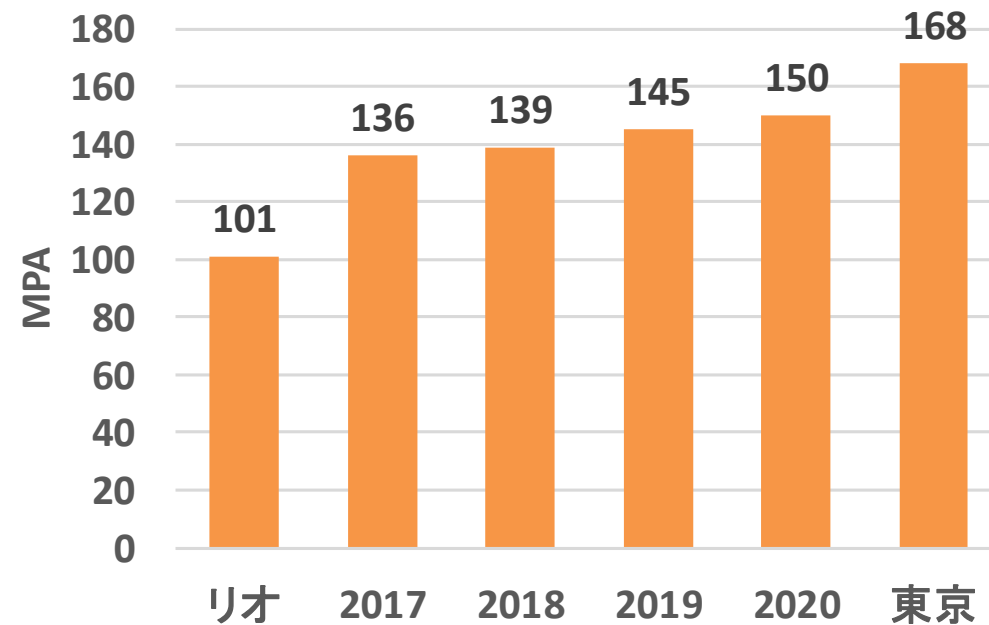
オリンピック競技

リオ大会以降のMPA数の動向



パラリンピック競技

リオ大会以降のMPA数の動向



※グレースノートPodiumデータベースに基づいた1-8位の数。

東京2020メダルランキング

東京2020金メダルランキング上位10カ国と日本のメダル獲得数

オリンピック競技大会

東京2020ランク		国名	メダル数				入賞数
金メダル	総メダル		金	銀	銅	合計	
1	1	アメリカ	39	41	33	113	229
2	2	中国	38	32	18	88	159
3	5	日本	27	14	17	58	137
4	4	イギリス	22	21	22	65	136
5	3	ロシア (ROC)	20	28	23	71	148
6	6	オーストラリア	17	7	22	46	111
7	9	オランダ	10	12	14	36	86
8	10	フランス	10	12	11	33	102
9	8	ドイツ	10	11	16	37	113
10	7	イタリア	10	10	20	40	108

パラリンピック競技大会

東京2020ランク		国名	メダル数				入賞数
金メダル	総メダル		金	銀	銅	合計	
1	1	中国	96	60	51	207	348
2	2	イギリス	41	38	45	124	226
3	4	アメリカ	37	36	31	104	247
4	3	ロシア (RPC)	36	33	49	118	294
5	9	オランダ	25	17	17	59	105
6	5	ウクライナ	24	47	27	98	210
7	7	ブラジル	22	20	30	72	206
8	6	オーストラリア	21	29	30	80	177
9	8	イタリア	14	29	26	69	153
10	20	アゼルバイジャン	14	1	4	19	33
11	11	日本	13	15	23	51	168

※大会終了時のメダル数。大会終了後にドーピングなどで変更があった場合などについては、反映していない。

※グレースノートPodiumデータベースに基づいた1-8位の数。

エビデンスに基づいた包括的なアスリート育成パスウェイ構築の必要性



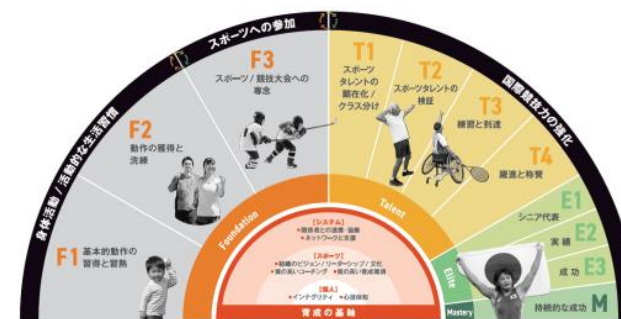
ナショナルタレント発掘・育成プログラム
NTID

スポーツ政策を踏まえた、地域から全国レベルでの各種タレント発掘・育成（TID）事業の実施

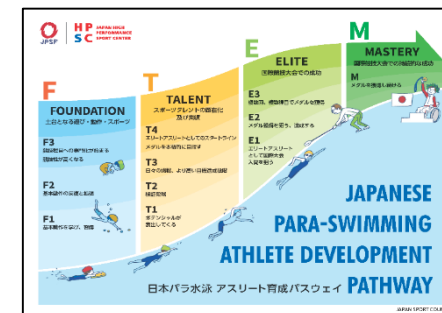
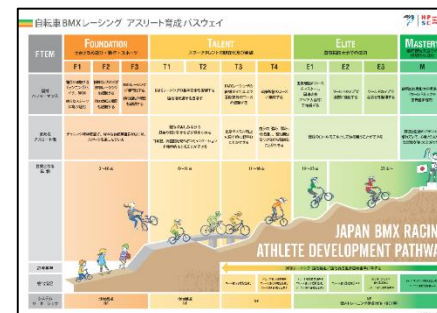
東京2020大会
オリパラ競技で14名出場
メダルなし



既存の「強化戦略プラン」の中に、8年以降を見据えた中長期の戦略的にTIDを位置づけた、エビデンスに基づいたパスウェイ構築が必要



包括的な枠組み「日本版FTEM※」のオリパラ競技2団体の活用事例



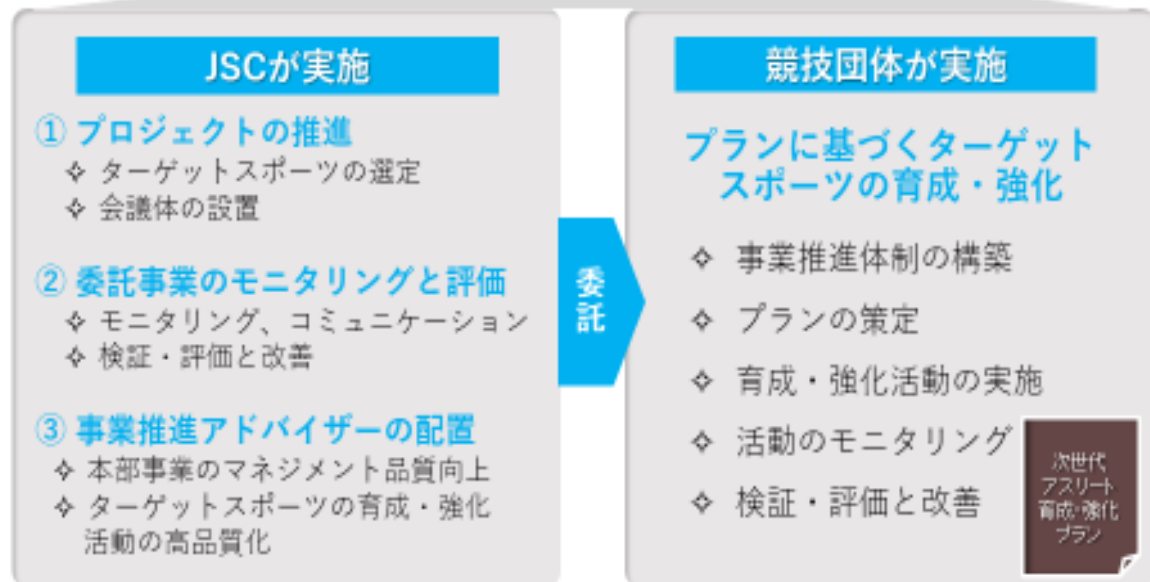
今後多くの競技団体に展開→国際競技力強化に貢献

※ 「日本版FTEM」とは、我が国の競技スポーツの基盤を踏まえたスポーツとアスリート育成の包括的な枠組みのこと

次世代ターゲットスポーツの育成支援

Vision メダルポテンシャルスポーツの最大化

Mission ①メダルポテンシャルアスリート[※]の最大化 ②育成・強化システムの確立



2020年大会向けプログラムのターゲットアスリートの成果

	MPA2019	東京2020 出場	東京2020 メダル獲得	東京2020 入賞
合計	9競技 20MPA	11競技 55人	9	11
オリ (10競技)	8競技 19MPA	10競技 51人	7	9
パラ (1競技)	1競技 1MPA	1競技 4人	2	2

2024年大会向けプログラムのターゲットアスリートの成果

	東京2020 出場	東京2020 メダル獲得	東京2020 入賞
合計	12競技 47人	4	17
オリ (10競技)	7競技 28人	0	7
パラ (5競技)	5競技 19人	4	10

※2024年向けプログラムは2019年度より開始

有望アスリート海外強化支援

コンセプト

将来有望な選手を世界最高レベルの海外強化環境へ派遣し、
2024パリ大会、2026ミラノ大会で金メダル獲得を目指す



夏季競技ターゲットアスリートの成果

競技	氏名	東京2020結果	支援期間
卓球	平野 美宇	メダル獲得	2016年度より現在
	張本 智和	メダル獲得	2016年度より現在
	伊藤 美誠	メダル獲得	2017年度より現在
	早田 ひな	不出場 (リザーブ)	2017年度より現在
柔道	阿部 一二三	メダル獲得	2016年度より現在
	芳田 司	メダル獲得	2016年度より現在
陸上競技	サニブラウン アブデルハキーム	出場	2016年度より現在
テニス	佐藤 久真莉	不出場	2016年度より現在
	綿貫 陽介	不出場	2016年度より2020年度
水泳・飛込	金戸 凜	不出場	2017年度より2019年度
パラ水泳	一ノ瀬 メイ	不出場 (補欠)	2016年度より2018年度

JSC村外サポート拠点 概要

目的

スポーツ庁から受託している「ハイパフォーマンス・サポート事業」において、第32回夏季オリンピック競技大会(2020/東京)、東京2020パラリンピック競技大会に出場する選手、コーチ、スタッフが競技に向けた最終準備を行うために必要な環境を提供するもの。

概要

ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)を補完する施設として、「JSC村外サポート拠点」を2か所設置し、大会直前及び期間中の選手のコンディショニングに必要な医・科学、情報サポートの機能を提供し、多方面からの支援を実施。

サポート拠点の運営に当たっては、スポーツ庁や東京2020組織委員会等が作成した感染症対策等のガイドライン等を遵守し、選手が安全・安心に施設を利用できる環境を整備。

■ 開設期間

オリンピック期間 : 令和3年7月13日(火)～8月8日(日)

パラリンピック期間 : 令和3年8月17日(火)～9月5日(日)

■ 開設時間

9:00～21:00 (基本開設時間)

■ 利用対象

日本代表選手団(競技団体の選手、コーチ、サポートスタッフ)

JSC村外サポート拠点 サポート機能

■ トレーニング

■ セラピー

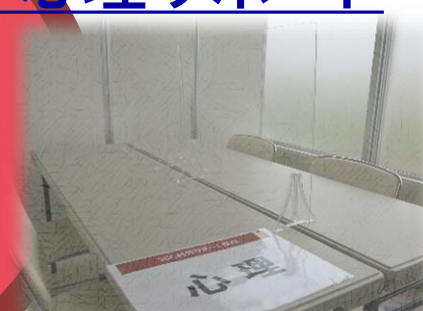
■ 交代浴

■ 心理サポート

コンディショニング

■ プールリカバリー

■ 補食の提供



JSC村外サポート拠点 利用実績

延べ人数（人）

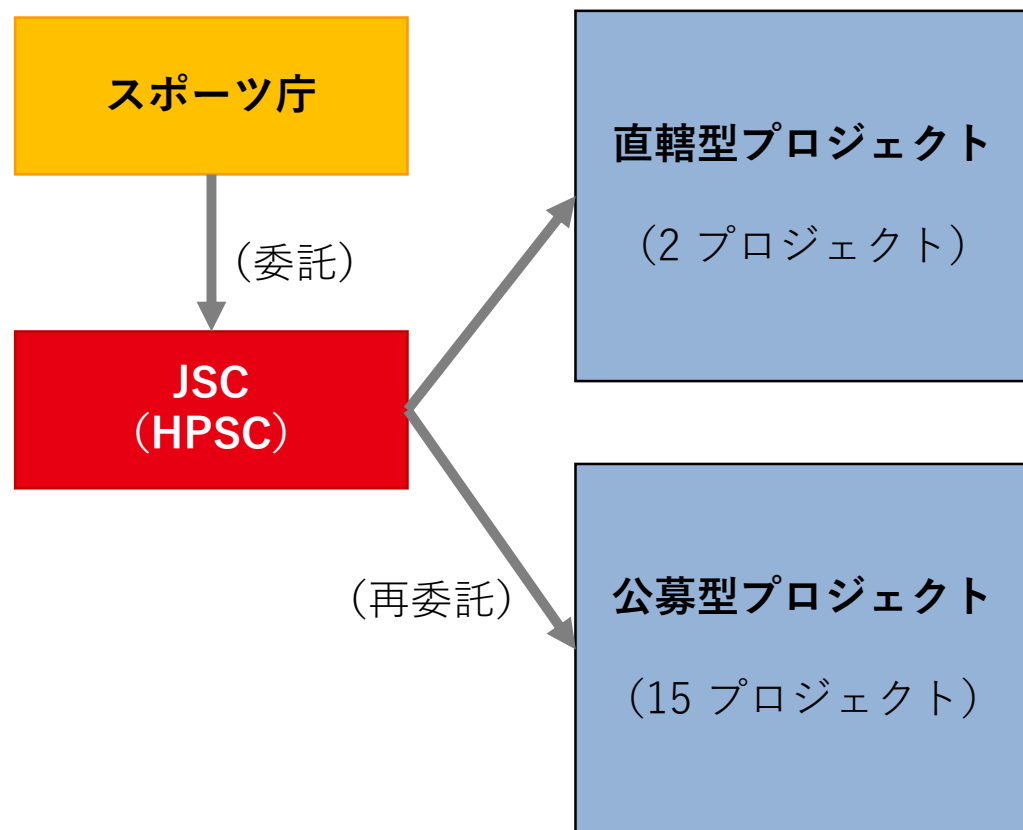
	オリンピック期間	パラリンピック期間	合計
HPSC	25,350	20,680	46,030
豊洲拠点	530	350	880
晴海拠点	1,940	1,230	3,160
合計	27,820	22,260	50,070

※1の位で四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※パラリンピック期間中の利用人数は、移行期間中（8/9～8/16）の利用も含む。

スポーツ技術・開発

競技用具の機能を向上させる技術等を開発するための体制を整備し、
東京大会等に向けた我が国アスリートのメダル獲得の優位性を確実に向上させる。



○ハイパフォーマンススポーツセンターの機能及び知見・技術等を
中心に開発するプロジェクト (PJ)

(対象/PJ数)

オリ・パラ (共通) / 2 PJ

○競技団体、大学・研究機関、企業等の知見や技術等を中心に活用
するもので公募・選定して行うプロジェクト (PJ)

(対象/PJ数)

オリ / 4 PJ

パラ / 7 PJ

オリ・パラ (共通) / 4 PJ

※上記は、東京大会向けのプロジェクト数。その他、平昌大会向け、北京大会向けのプロジェクトも実施

まとめ

以上のことから「競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）」は、一定の成果を上げたと言えるであろう。